

独自の活動・情報教育で伸ばす自主性

聖母女学院中・高等学校



▲プリントとホワイトボード、スクリーンを参考にデザインを考える
聖母女学院中学校一年生の生徒さんと梶山先生(左)と森畑先生(右)



聖母女学院中・高等学校 森畑 忠史先生
聖母女学院中・高等学校 梶山 満夫先生

二十年前ほど前から情報教育に取り組んでいるという、大阪府の聖母女学院中学校・高等学校にうかがいました。

中学一年生の「総合的な学習」での情報の授業を見学させていただき、担当された梶山満夫先生と森畑忠史先生にお話を聞きました。

中学一年生が上級生のために

取材日は、十一月の初め。高等学校二年生の希望者と一部の三年生がタイポグラフィに行く「タイ隊」が、タイの子どもたちへプレゼントに添えて渡すクリスマスカードの作成の仕上げです。

「タイ隊」とは、タイの貧しい子どもたちのために、シスターのお手伝いのボランティアに行く活動です。日本の伝統的なおもちゃを紹介したり、一緒に遊んだり、イベントをしたりします。

生徒たちは、「私たちはなんて恵まれてるんだろ」と感じ、まず物を大切にしようになります。親や教師、周りの友達、自分の環境などに対する価値観が大きく変わるようです。逆に、こちらが得ていることの方が多いと感じています。

今日、作っているカードをあげると、子どもたちはとても喜んでくれます(森畑先生)

この日の授業内容

まず、梶山先生が事前に配られている作り方のプリントをもとに、もう一度今日の授業でのポイントをホワイトボードに書き、スクリーンも使いながら説明していきます。

「クリスマスカードは、A4サイズの半分で作ってください。縦長でも横長でも自由です。インターネットで検索して見つけた著作権フリーのイラストを入れてください。英語でメッセージを入れてもいいですよ。作者の名前はローマ字で書いてください。」

環境と独自の試み

「生徒用のウィンドウズだけで、合計百五十台あります。教室だけでなく、ろくかや保健室にも置いています。先ほどの「ラインズキャンパス」とは、市販のソフトにオプションを加えた、わたしたちの学校独自のものです。学校と家庭からつながります。生徒は、作品を提出(ページに登録)したりします。



▲色鮮やかなクリスマスカードがもうすぐ完成。
プリント前にチェックをする生徒さん

他の生徒の作品に刺激されるせいか、年々作品が高度になってきているように感じます。

また、学校行事なども携帯電話とパソコンから見られるようになっていきます。保護者の方は、掲示板を見られるようになっていくので、生徒が行った語学研修や国際交流の様子なども見て安心されます。

現在、生徒会を中心として、「夏の制服変更について」のアンケートをとっており、全員の意見がのつています。意見箱などと違い、全生徒の意見が加工されることなく、瞬時に発信できることが最大のメリットです。

集計も自動的にこなされます。ただし、こういったことが良識を持っている、という信頼、しかも内輪である、という条件が前提です。

この結果は、来年度の制服変更にも反映される予定です(梶山先生)

「中学校では、『総合的な学習』の流」と

(財)全日本情報学習振興協会 第十四回パソコン基礎検定試験一級合格者

- 【北海道】梅本祥平/佐藤瑞季/埼玉県【杜澤岳彦】
- 【東京都】大山真童香/岐阜県【森川翔平/愛知県】
- 【犬飼里美/奥村隼大/白井宏成/鈴木健司/中山翔太郎/中山唯/古田賢司/松田紋子/森部真道】
- 【三重県】五十嵐太郎/池内亜衣/後藤はつみ【兵庫県】
- 【田中翔一/福岡県】梶原誠太

日本情報教育検定協会主催 第五十六回パソコン検定試験Ⅲ種初段合格者

- 【北海道】日沼若菜/埼玉県【杜澤岳彦/神奈川県】
- 【羽生田ゆきの/東京都】菅原夢/静岡県【長谷川龍/山本幸代/愛知県】加藤敏也/鴨下淳/広田哲也
- 【三重県】蒲彩加/兵庫県【田中翔一/大阪府】中西雄大/山口県【仁王頭達也】

第五十六回パソコン検定試験Ⅲ種一級合格者

- 【神奈川県】笹島健裕/岐阜県【吉田拓磨/愛知県】
- 【天野敬太/天野稔紀/加藤次朗/鈴木偉大/西尾真也/三重県】上地澄佳【京都府】岡田久美【大阪府】竹花美彩/中山翔太郎

(敬称略)

な学習」の時間に、二年生は情報、二三年生は、福祉と、自分や家族を振り返る、という学習をしています。

高等学校では、二年生が「情報C」を学びます。最近耳にするインターネットを使った犯罪なども、ネットを使った道具がコンピュータという道具が悪いわけではなく、あくまで悪い使い方をする人間が悪いのだ、ということから、被害者にならない、加害者にならない、ということに学校では教育する必要がありますと考えて、「情報C」を選びました。

読者へのメッセージ

「人ひとり自分が主役だ」ということを忘れないようにしてください(梶山先生)